

実践事例（２）

第３・４学年 国語科 ～主体的に学ぶ児童を育てる指導の工夫～

１ はじめに

本学級は、３年生４名、４年生６名の複式学級である。そのため、授業においては、両学年の児童が主体的に学習を進められる手立てが必要である。また、少人数であるため、表現力の育成も課題となっている。そこで、学習の見通しをもって主体的に取り組み、自信をもって自分の考えを伝える児童を育成するために、以下のような学習指導の工夫を行った。

- (１) 単元構成の工夫とガイド学習
- (２) 直接指導の工夫（板書の工夫・機器の活用・聞き方の指導）
- (３) 間接指導の工夫（学習のパターン化・モデルの提示・ワークシートの活用）

２ 実践例

第３学年	第４学年
せつめいのくふうについて考えよう 「すがたをかえる大豆」	段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう 「アップとルーズで伝える」

(２) 単元目標（評価規準）

第３学年	第４学年
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読むことができる。 (読む) ○ 文章構成を理解しながら、文章の内容に関心をもって読もうとする。 (関心・意欲・態度) ○ 文章中の表現や言葉に着目し、国語辞典を使って調べることができる。 (言語) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。 (読む) ○ アップとルーズそれぞれの特徴を整理しながら興味をもって読もうとする。 (関心・意欲・態度) ○ 指示語や接続語が、文や段落の関係を示す手がかりになることを理解することができる。 (言語)

(３) 単元の指導計画

第３学年(全７時間)		第４学年(全８時間)			
学習内容	時	次	次	時	学習内容
<ul style="list-style-type: none"> ○ 難しい言葉の意味や新出漢字を調べる。 ○ 次単元「食べ物のひみつを教えます」について知り、「どのようにすれば食べ物のことを分かりやすく説明できるのだろう。」という学習課題と学習の見通しをもつ。 	1	1	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次単元「『クラブ活動リーフレット』を作ろう」について知り、「どのようにすれば分かりやすい説明文が書けるのだろう」という学習課題と学習の見通しをもつ。 ○ 難しい言葉の意味や新出漢字を調べる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章全体を三つに分ける。 ○ １～２段落の内容を読み取る。 ○ ３～７段落を読み、説明の仕方の工夫を見付ける。(本時) ○ ８段落の内容を読み取る。 	1	2	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ １～３段落の内容を読み取る。 ○ ４～６段落を読み、実際の映像の中でアップとルーズがどんな目的で使い分けられているかをまとめる。 ○ ７段落を読み、実際の新聞記事ではアップとルーズがどんな目的で使い分けられているかをまとめる。(本時) ○ ８段落の内容を読み取り、段落相互のつながりを考える。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かりやすい説明の仕方について学習したことをまとめる。 	1	3	3	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真と文章の対応や対比して述べる段落構成についてまとめる。 ○ 教材文の段落構成を生かして、身近なものを対比して述べる説明的文章の書き方を考える。
れいをあげてせつめいしよう 「食べ物のひみつを教えます」	次単元 学年間で発表会をする		説明の仕方を工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう 「クラブ活動リーフレット」を作ろう		

(4) 本時の指導

第3学年			第4学年		
(1) ねらい ○ 「中」の段落の内容を読み取り、説明の仕方の工夫に気付く。			(1) ねらい ○ 7段落の果たす役割を考え、実際の新聞の写真が、どのように使われているのか説明する。		
(2) 準備物 OHC ワークシート			(2) 準備物 OHC ワークシート 新聞		
(3) 展開			(3) 展開		
○指導上の留意点 ◎評価	学 習 活 動	わり	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◎評価	
	1 学習課題をつかむ。	3 3	1 1～7段落を音読する。	○ 係を中心に学習を進めさせる。	
	どんなくふうが、どんなじゅんじょで書かれているのでしょうか。				
○ どの言葉や文に注目して読むか伝えておく。	2 3～7段落を音読する。	3 3	2 学習課題をつかむ。		
			新聞の写真は、実際にはどのように使われているのでしょうか。		
○ 「くふう」という言葉に注目させて、中心となる文を見つけさせる。 ○ 係を中心に、記入した内容を確認させる。 ◎ それぞれの段落の内容を、表に整理することができたか。(ワークシート)	3 3～7段落の要点をワークシートの表に整理する。	10 10	3 7段落とそれまでの段落を比較して読み、文章全体に果たす役割を考える。	○ 「目的に応じて」と「目的にいちばん合う」は同じ意味であり、「テレビ」と「新聞」、「画面」と「写真」、「きりかえ」と「組み合わせ」が違いであることをおさえ、7段落の役割をまとめる。	
○ 児童から考えが出てくれば、接続語や加工する方法、かかる時間の長さを手がかりに考えさせ、理由を黒板にまとめておく。	4 どうしてこの順序で説明しているのかを話し合う。	10 10	4 実際の新聞では写真がどのように使われているのかを説明する文を書く。	○ アップとルーズを比較して書くワークシートを準備する。 ○ 使い方の目的をつかみにくい児童には、見出しや文章に注目させる。	
○ 米や麦などからできている身近な食品を写真で提示し、学習活動4を生かして紹介したい順序とその理由を簡単に書かせる。	5 他の食品ならどの順序で書きたいか考えを書く。	10 10	5 自分の考えを伝え合う。	○ お互いの考えを比較しながら聞かせ、感想を交流させる。 ◎ 7段落の役割を理解し、実際の新聞の写真の使われ方を説明する文を書くことができたか。(ワークシート)	
○ OHCを使い、視覚でも確認できるようにする。 ◎ 説明の仕方の工夫に気付くことができたか。(ワークシート)	6 自分の考えを伝え合う。	9 9	6 新聞以外のものでは、写真がどのように使われているのかをまとめる。	○ リーフレットやパンフレットなど新聞以外のものを準備しておき、写真の使われ方に興味をもたせる。	

3 考察

(1) 単元構成の工夫とガイド学習

本単元は、「読む」ことを中心としており、ここで学習したことを、「書くこと」を中心とする次単元に生かすよう単元構成をした。

このことにより、児童の課題意識を明確にすることができた。(資料1)

単元の終末に、それぞれの学習の成果を交流できる場を設けたことで、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。(写真1)

ガイド学習を行うため、単元の流れや1単位時間の流れを提示したことで、係を中心として主体的な学習が展開できた。(写真2)

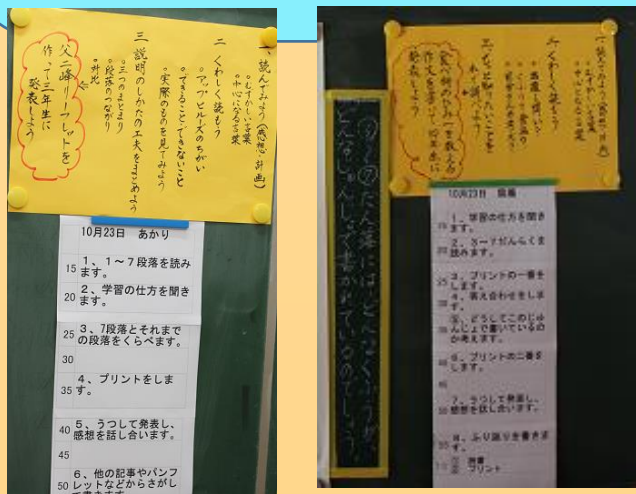


写真2 学習の流れ
(上：単元全体 下：1単位時間)
(左：3年 右：4年)

(2) 直接指導の工夫

「課題把握」と「話し合い」の場面では、一定の時間の中で効率よく学習できるよう次の二つの工夫をした。

ア ポイントになる言葉のカードを色分けして提示したことで、言葉を比較・分類しながら効率よく考えさせることができた。また、その後の間接指導での「書く」活動のヒントにもなった。(写真3)

イ 本学級では両学年にOHCを置き、書いたものを映しながら発表させるように習慣づけている。視覚でも確認できるため、発表後も、意見を交流しやすい。

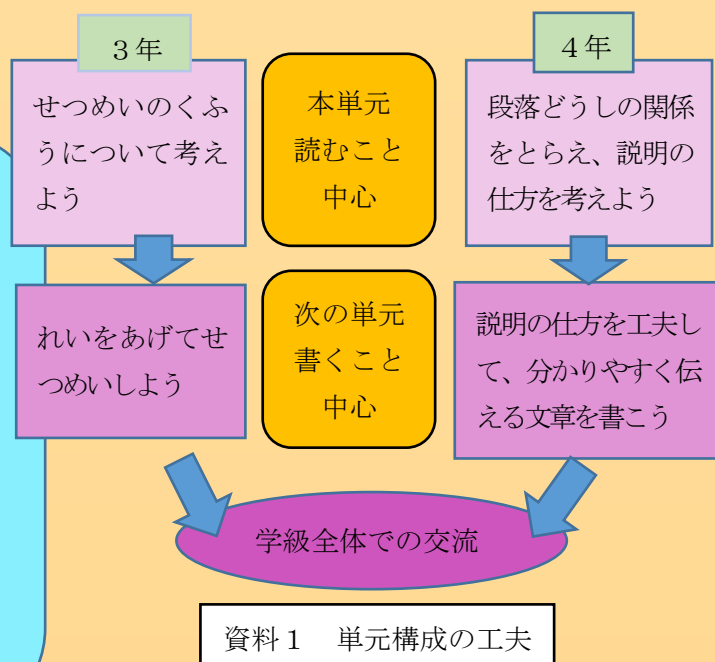
また、意見の交流ではお互いの考えを比べた発言を称揚し、日頃から聞くポイントを身に付けられるよう配慮している。そのため、わたりが上手いかなかった時も、児童同士で話し合うことができた。(写真4)

写真3 板書の工夫(色分け)

その写真を見て、アップカールズか、〇さんと同じように思っただけ、私は少し、理由が違って…。



写真4 機器の活用



資料1 単元構成の工夫

〇〇さんの書き方は、分かりやすいものから分かりにくいものの順で書いているところが工夫されていると思います。

ぼくは、去年魚のことを調べたけれど、カツオブシは魚からできているなんて、初めて知りました。



写真1 学習成果の交流

